

「ボランティアコーディネーターコース」開催結果

阪神・淡路大震災以降、多発する災害への対応を通じて、各地で民間団体による災害対応のノウハウが蓄積されています。本コースでは、災害救援や復旧活動に関わってきた市民活動関係者との連携を通じて、こうした実践に役立つ知識・ノウハウを提供し、「知」を実践に活かせる人材の育成を目指しました。

記

1 日 時

平成16年8月23日(月)～25日(水)

2 場 所

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
「防災未来館」5階プレゼンテーションルーム 等

3 参加者 27名

(内訳)

	ボランティア団体	社会福祉協議会・行政	研究者	医療関係者	その他	合計
北海道・東北地方		1				1
関東地方	1	1				2
中部地方	6		1			7
近畿地方	3	3	1	2	3	12
中国・四国地方		1				1
九州地方	2	2				4
合計	12	8	2	2	3	27

4 内容

開講2年目となる平成16年度コースでは、昨年度同様、被災者(地)支援の前線となる「災害ボランティアセンター」の設置・運営、及びそこでのボランティアコーディネーションをメインテーマとしましたが、さらに「コミュニティにおける事前の減災対策」も重要課題として位置づけ、カリキュラムを編成しました。

また、講義形態についても、ワークショップ形式を多用し、講師と受講者、受講者同士が、意見を交換しあい、相互に情報交換できる機会を豊富に設けました。

3日間の研修の具体的な内容は、以下の通りです。

初日にあたる23日は、センターの展示施設を使ったワークショップを行ったあと、神戸市内にあるボランティア活動が活発な地域を訪問してフィールドワークを行い、阪神・淡路大震災の発災直後の混乱した状況から復旧・復興にいたる一連の課題、とりわけコミュニティの崩壊と再構築について学びました。

続く24日は、メインテーマである「災害ボランティアセンター」の設置・運営とそこでのボランティアコーディネーションについて学びました。まず、初めての経験が多かった阪神・淡路大震災から、組織体制を整え機能的に運営できるようになった現在までの経緯を概観し、さらに昨今の画一・一斉・大量といった組織化による弊害などの課題も鑑み、演習形式によるコーディネートの事例研究を組み込みながら、災害時のボランティアコーディネーターのあり方について考えました。

最終日の25日は、もう一つの重点課題である「事前の減災活動」について、事例報告・集団討議を通じて、受講者自身が普段の生活の中で、被害を減らすためにどんな取り組みができるのか、を考えました。

5 参加者の評価

当研修は、昨年度に引き続き2回目となるのですが、参加者アンケートでは「非常に得るところがあった」との意見が多く、時間配分等改善すべき点が若干残るもの、全体としては高い評価をいただけたものと考えています。

- ・研修に対する満足度の評価点数の平均点は94.6点であり、非常に高い評価を得た。
- ・カリキュラムがきっちりと組まれていて体系的だった。
- ・講師の方々が非常に熱心だった。
- ・参加型のワークショップ形式がふんだんにあり、一方通行になることなく、考えながら学ぶことができた。
- ・この研修を地元に持ち帰って何ができるか考えたい。
- ・講師の方々、受講者とつながりを持てたことが良かった。
- ・カリキュラムにもう少し余裕があれば良かった。



ワークショップの様子